

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	北村 篤司
主な担当科目	教育相談法,臨床心理学Ⅰ,臨床心理学Ⅱ
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	授業を通じて、学生が基本的な知識や理論、考え方を自分の体験と結び付けながら理解し、一人ひとりが興味関心や問題意識をもって学びを深めるための材料、時間、場を提供する。本年は特に、学生間および学生と教員間での対話的なやりとりを充実させることを意識する。具体的には、グループワークにおける素材や枠組みの工夫、ワークの意義の説明、他の学生のアイデア・意見を聞く機会、提出物へのフィードバックなどを充実させる。またICTの活用など新しいアプローチにも積極的に取り組みたい。
2023年の教育に関 する自己評価	学生自身がテーマに関する基本的な知識を身に付け、興味関心や問題意識をもって学びを深めていけるような授業をある程度実践できた。グループワークでは、アイスブレイクの実施や、個人作業・グループでの話し合い・全体でのシェアの枠組みを明確にするなどの見直しを行い、学生のコメントでもグループワークでの視野の広がり言及するものが一定数見られた。また、授業の復習の際、学生の意見を聞きながらICTのツールを導入したことで、学生の取り組みが以前よりも積極的になった。
2023年のFD活動 に関する自己評価	全体研修会では、現在の大学の置かれている状況や課題などについて幅広く学んだ。グループに分かれての研修や、学内組織のFD研修会では、他の先生方から具体的な授業運用における困難や、学生への関わり方を伺い、授業の進め方や学生への支援についてより深く考えることができた。また、2023年9月に実施したFD研修会では、教職課程についてのオンデマンド動画を作成し、教職課程の現状について、幅広く知ってもらう機会を設けることができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	学内組織の研修会での他の先生方の授業の進め方や学生への関わり方についてのアイデアを参考にして、自分の担当授業における実施方法を見直した。また担当する授業で、ジェンダーやセクシャリティについて扱うことも多いため、FD研修会で学んだことを踏まえ、学生がテーマについて適切な知識を持ち、自他の多様性を理解し、尊重できるように授業での伝え方・取り上げ方を見直している。

2023 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2902 教員名:北村 篤司

1)アンケート結果に対する所見

教育心理学:4 クラスで平均をとり、今学期の全科目平均に比べると Q4(3.48)が 0.1 以上低く、Q7(3.69), Q10(3.76)が 0.1 以上高く、残りはほぼ変わらなかった。昨年度結果と比べると、Q4 が 0.22、Q9・Q10 が 0.1 以上低下、Q8 が 0.1 以上上昇した。81 名中 50 名と回答率は高くなっていた。回答者の出席状況の悪いという認識が例年より多いが、授業で例年以上にそれを強く感じたわけではなく、出席率がよくない学生もアンケートに回答した結果ということも考えられる。

臨床心理学 I・臨床心理学特論 I:全体平均との比較では、Q4 と Q8 が平均を下回り、Q6 と Q10 を中心に、それ以外の質問は平均を上回っていた。昨年度との比較では、Q6 と Q7 が上昇し、Q1, 4, 8, 9, 10 が低下した。臨床心理学特論(大学院生)では、回答者 3 名(受講者 5 名中)で、Q4~Q10 まで 2 名が高評価、1 名がそれより低く、Q7「学生とのコミュニケーションに努めながら進められている」Q9「授業は自分の研究に役に立っている」について低い評価があった。今年は大学院生の受講者が 5 名とかなり多く、そのようなときは、より大学院生のニーズも取り込みながら授業を展開する必要性を感じた。

2)要望への対応・改善方策

教育心理学では、特に要望はなく、記述では「実際の映像などを使って授業をしている為、とても分かりやすい」「コメントシートに一つ一つ丁寧に先生のフィードバックが書かれてあって嬉しかった」などのコメントがあった。最終回の授業でも授業の仕方への感想・改善案などを書いてもらっているが、資料や映像、穴埋め式のプリント、復習ポイントやキーワード、レポート、グループワークなど良かったとして挙げる点が学生によって異なるため、引き続き、多様な手立てを組み合わせながら充実した学修の機会を提供したい。

臨床心理学でも、特に要望はなかったが、「内容が他人事ではないことが多くて、自分を振り返ることが出来ると思います」というコメントがあり、自分と照らし合わせながら学修を深めている受講生もいることが感じられた。

3)今後の課題

受講生によって、出席状況・授業への関心や意欲・知識などに違いがあるなかで、どのようにできるだけ多くの受講生にとって有益な授業を展開できるかが課題である。映像を用いた学修、自分の考えを深める機会(コメントやレポート)、他者の意見に触れる機会(グループワーク)など、多様な学修方法を組み合わせることと、クラスの状態・雰囲気に応じて柔軟アレンジをしながら学生と協働して授業を作っていくことを意識したい。

以 上

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2902 教員名:北村 篤司

1)アンケート結果に対する所見

教育相談法:月・月5・月6・水1の4クラス開講だが、フィードバックのあった3クラスの評価の平均値について全体平均と比較すると、0.1 以上差があった項目は、Q8 予習復習が平均を下回り、Q3,Q5,Q6,Q7,Q9,Q10 が平均よりも高かった。前年度の数値と比較すると、全体的に数値は高くなっており、Q10 の満足度は全てのクラスで平均が 4 点だったのは良かった点として挙げられる。今年度は授業の履修者が少なめで、少人数でグループワークやロールプレイなどの楽しさや意義を感じてもらいやすかったかもしれない。一方で、アンケート回答者数は半数以下であり、授業で時間を設けていても回答者が増えないところは課題である。

臨床心理学Ⅱ:全体平均の数値と比較すると、Q4、Q8 が 0.1 以上低く、Q5、Q6、Q7、Q9、Q10 は高くなっていた。昨年度に比べると全体的に数値は高く、特に Q9 と Q10 が 4 点だったのは良かった点として挙げられるが、回答者数は 5 名/15 名と少なかった。

2)要望への対応・改善方策

今回の授業アンケートでは自由記述において特に記載がなかった。

授業の最終回のコメントシートで、授業についての感想・意見を尋ねているが、教育相談法では、「クイズ形式(カフト)が復習にとってもよいと思った」「ワークでは様々な考えを共有し合うことができた」「コメントシートを通してより詳しいことを知れたり、自分の考えに対するアンサーをもらえて、より授業への理解が深まった」などのコメントがあった。カフトを使った復習クイズは好評だったので今後も活用したい。改善点として、「電気を MAX でつけるときまぶしかった」というコメントがあったので、声かけをしてから電気をつけるよう意識したい。

臨床心理学Ⅱでは、グループワークや体験的な学習が好評だったので、引き続きそのような機会を充実させていきたい。

3)今後の課題

教育相談法、臨床心理学Ⅱともにワークやロールプレイ、ディスカッションなどが学修において重要となる。毎年クラスのメンバーで、授業やグループワークの雰囲気異なるため、クラスの特徴に合わせて、学生の様子を見たり、意見を聴いたりしながら、学生と共に良い授業を作っていきたい。

以 上